

問二 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 4。

- ① 独創性のかけらもない
② 独創性の高い証拠である
③ 独創性を真似られることだ
④ 実ほ模倣ができていない
⑤ 巧みな模倣ができている

問三 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5。

- ① おまけでついできた結果ではない
② かつて科学のためには有害なものである
③ 副産物のようなもので、目的ではない
④ 目的にしても得られるものではない
⑤ むしろ勿怪の幸いといふべきである

問四 傍線部 A「糖衣をかぶせた反対の説明として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6。

- ① 遠回しに暖味に言うことは反対のストレートな言葉
② 婉曲に表現することに対してはつきりと反対する言葉
③ 多少なりとも反対していることをはっきりと表明する言葉
④ 実際は反対しているのに表面的には賛同を表った言葉
⑤ 暖味に言うことで賛同していることが見えにくくなった言葉

問五 傍線部 B「完全な歯車の一つになるということ」の説明として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 7。

- ① 機械の中にはたくさんの歯車があるが、ただの歯車ではなく、全体を動かすのに大切な完全な歯車として評価されるように組織の中で働く、ということ。
② 機械の中の一部である歯車のように組織の中の一員として、いたずらに自己を主張することなく、その場での役割をまっとうする、ということ。
③ 研究する組織の中の一員として他の成員と協力しあうことで、組織をあたかも完全な機械であるかのように完成させることに努める、ということ。
④ 機械の中の最も大切で完全な歯車の一つであるかのように、自らが置かれた組織の中でつねに重要な役割をはたすべく努力していく、ということ。
⑤ 機械がきちんと動き機能するためには一つ一つの歯車が自分の仕事を行うべきで、他の仕事にまで手をのばすことなく完全な一つになる、ということ。

問六 傍線部 C「このこと」の説明として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 8。

- ① 花は美しいものではなく、ただのものである、ということ。
② すべての事物を、ものと見て、そのものの本体、およびその間にある関係をさぐるのが、科学である、ということ。
③ 科学的な考え方といっても、なにもむつかしいことはない、ということ。
④ いちばん単純で簡単なものの考え方が、科学的な考え方である、ということ。
⑤ 複雑な問題を、複雑な方法で扱おうとしたら、めちやくちやになる、ということ。

問七 傍線部 D「いらない」「ない」と同じ品詞の「ない」が含まれているものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 9。

- ① それは僕にはとてもできない
② つまらない所属物
③ もったいない話である
④ そこが終局ではない
⑤ あまり意味がない

問八 空欄 Z に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 10。

- ① その電気器械や台所がはたして善いものなのか悪いものなのか
② その電気器械や台所を科学化という目的のために使うことができるかどうか
③ その電気器械や台所までが近代化されなければならないのか
④ その電気器械をどう利用するか、また近代化された台所をどう使うか
⑤ その電気器械や近代化された台所について科学的なものの考え方ができるかどうか

問九 本文全体を通しての筆者の考え・主張を説明する文として適切でないものを、次の①～⑥から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 11。

- ① 日本人が機械に優れたつも独創性を持った民族でありながら、そこに独創の科学が生まれなかったのは、永い鎖国の時代に他人の思わくを気にする性質を培ってしまったことに原因がある。
② 科学と技術との融合の上に現代の科学文明を打ち立てていくためには高度の協力が必要であり、日本人が近代化・科学化を後進し進めていくためには、他人の思わくを気にしない姿勢が求められる。
③ 日本で本当の協力をはばんでいた鎖国時代の悪習は、幕末の勝海舟がうんこの研究をきっかけに科学の真髄をとらえたことで、ようやく打破され、それによって明治以降の近代化・科学化が進められた。
④ 勝海舟が科学には汚いものはないということを喝破したように、すべての事物を、ものと見て、そのものの本体、およびその間にある関係をさぐるということに科学の真髄をみるができる。
⑤ 他人の思わくを気にして問題を複雑化させないことが科学に必要な協力を可能にさせるが、それはまた複雑な問題を単純な方法で取り扱おうという科学の真髄でもあり、科学の根本問題につながっている。

2

次の文章を読んで、後の問一～七に答えなさい。

基礎研究の現場で取材している、その実験が何を目的にに行われ、最終的にどんな役に立つのかわからなくなることがある。私が専門家ではないからわからないのではない。ある大学で再生医療の研究をしている若い医師から、研究者でもそこがわからないまま実験している人は案外多いと聞いて驚いた。技術の調順やノウハウ、論文を書くことにこだわり大局が見えなくなる。やがてはそれが普通になって、誰一人としてこの研究が正しいというのだ。何の役に立つのかと問題にしくなるといふのだ。

私の質問に答えてくれる人はまだ良心的で、だいたい研究の現場にはそんな質問などできない雰囲気か漂っている。何の役に立つかなんて考えていたらこんな研究やつられないよ、などという声も聞こえた。

生命操作に関する報道が新聞の一面をかざることもめずらしくなくなった。クロীন人間をつくるのだとか、受精卵から取りだした細胞を「パイオウ」して神経細胞をつつたとか、最近では日本の研究者がほうれんそうの遺伝子を組込んだ豚を誕生させたなどという報道もあった。一般人の反応は、それはいったい何なのか、それがいったいなんの役に立つのか、だろう。

中心に研究が始まった。クロロニル羊ドリーを産んだイギリスの研究者らの目的もそこにあった。一方、日本の場合などは「食べること」を目的としてその研究が目立っている。全国で二百数十頭誕生したクロロニル羊も改良品種を大きな目的としている。けれども、豚も「豚も食品としての実用化を目指している」という。記事には、人間と哺乳類の体内ではつくることのできないノルリル酸などの不飽和脂肪酸を合成する遺伝子をはいるというの根から取りだし、豚の受精卵に入れて誕生させたという。

ひとつは植油の宣伝文句に「登場したりノール酸だ」が、その過剰な摂取がアレルギーやがん、心筋梗塞を促す物質を作り出すという指摘もある。それに、スーパーのぞけばわかることだが、消費者は遺伝子組換え植物すら抵抗を感じている。食文化というのは科学技術のガイザを極端に嫌う傾向があって、そう簡単に変えることができないものだ。それなのになぜいま、遺伝子組換え豚なのだろう。市場は簡明には受け入れないだろうし、ほうれんそうが食べられなくなる時代がすぐやってくるのも思えない。

だが多くの研究者はそれはをえない。今回生まれた豚の脂肪を調べたところ不飽和脂肪酸がほかの豚より1割多かったといい、このように外から入った遺伝子が動物の体内で機能して、目的とする物質が生産されている状態を説明することが事なのだ。研究の自由と科学者の好奇心を批判するつもりはないが、これを実用化だなんて、どうも私たちの生活感覚とずれているような気がする。体内に存在しなかった遺伝子が入ったことで、豚の健康

— 9 —

私にふと、星新一のペンギンの話を思い出した。

『探検隊』という物語がある。ペンギンは出てこな

舞台は小さな村。ある日、長さ三キロはある大きな宇宙船がやってきた。村人たちは宇宙船から現れた宇宙人たちに驚いた。背丈五十メートルはあるうかと思ほどの巨人だったのだ。村は大々々々になったが、やがて宇宙は村人に危害を加えることとなり友好的であることがわかった。村を探検してひと通りの調査をすませると、自分たちが連れてきた頭の怪獣を地面に深く刺した。鋼鉄の杭につないで置き去りにして去っていた。村人たちは残された怪獣を不安げに見つめた。

村に雪が降り積もる頃、異変が起きた。二頭の怪物が鎖をかみ切り、村であばれたのである。村人たちは次々と餌食になった。このままでは皆殺しになる。恐れた村人たちは荷造りをして村を去ろうとした。

すると、あの巨大な宇宙船が再びやってきた。村人たちは、宇宙人たちが怪獣にこらしめつけられるに違いないと安心した。ところが期待は裏切られた。宇宙人は、頭の怪獣を愛おしそうに抱き上げ、怪獣も牙をひっこめて宇宙人に頬ずりをしぐのだ。すると、だれかがつぶやいた。

「Y
、タローとかジローとかいう名にちがいない」

星新一の解説によるとこれは感動の物語として語りつがれている南極探検隊とカラフト大ロージローの再会のニュースを受けて書かれたものだという。探検隊が収容できずに置き去りにした犬がペンギンを食べて生きのび、翌年やってきた探検隊に再会したという実話だ。みんななんなん疑いもなく犬をペンギンより優位においているが「ペンギンの身にもなってみろ」。これが星の言葉だった。だが、星はこうもいう。ではペンギンの群れが犬や人間を寄つてたかつて食い殺す光景が望ましかと反論されると沈黙せざるをえないと。

確かに豚の話にも矛盾はある。動物にとってはほとんど病的だといわれる霜降り肉をありがたがっていることを考えたら、ほうれんそう豚がどれほどの悪食なのかと。

でも、いつも私たちが論理的に物事を解決してきたわけではない。なんか変だと思ふ時間の積み重ねがいつしかいい方向に進ませることもあるのではないかと。そう思う時間を失うことのほうがもっとこわい。

〔最相葉月〕あのころの未来——星新一の預言〕による。設問の関係上、本文を改めたところがある。

問一 傍線部ア、イを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を含むものを、次の各群の(a)～(e)からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 12、イが 13。

ア	バイヨウ	イ	カイサイ
(a)	所得がバイソウとする	(a)	病人をカイホウする
(b)	土地をバイキョクとする	(b)	ツウカイ板を手渡す
(c)	広告バイタイとしてのテレビ	(c)	ツウカイの出来事だ
(d)	温室サイバイで野菜を育てる	(d)	カイコンの情にさいなまれる
(e)		(e)	販路をカイタクする

問二 傍線部A「それがいったいなんの役に立つのか」の説明として最も適切なものを次の(a)～(d)から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は 14。

えておくことが必要ではないか、と筆者は主張している。

(b) リノール酸などの不飽和脂肪酸を合成させることが研究者にとっての大事なことだとしても、リノール酸は過剰な摂取が問題とされているので、かつて害が大きい問題だ、と筆者は主張している。

③ 研究者にとっては、外から入れた遺伝子が動物の体内で目的とする物質を生産している状態が証明されることが大事なのだとともに、そんなことは一般の人には通用しない、と筆者は主張している。

④ ほうれんそうの遺伝子を組み込んだ豚を誕生させたとしても、それが人間の疾患モデルや人間への移植用臓器といった医療分野に携わらないのであれば、なんの役にも立たない、と筆者は主張している。

⑤ リノール酸などの不飽和脂肪酸を合成させることに意味があったとしても一般の人にとってはそれを腸の健康を告げてまで行っていくことになんの意味があるのか不明だ、と筆者は主張している。

問三 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 15。

- ① ことであつてもである
② 健康について考えろ
③ 大切さを考えろ
④ 身にもなつてみろ
⑤ ことだけではない

問四 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 16。

- ① 南極に残されていた犬の名前は
② あの怪獣どもは、やつらのペットで
③ あの怪獣は「犬」という種類であつて
④ やつらと仲のいい怪獣どもは
⑤ 怪獣どもが優しくなつたのは犬のせいだ

問五 傍線部 B「矛盾」と同じ意味の言葉を、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 17。

- ① 五十歩百歩
② 首尾一貫
③ 自己陶酔
④ 自家掩蔽
⑤ 竜頭蛇尾

問六 傍線部 C「悪食の『食』と同じ読み方をする『食』を含むものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 18。

- ① 食意地
② 食育
③ 食器
④ 食頃
⑤ 断食

問七 本文全体を通しての筆者の考え・主張を説明する文として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 19。

- ① 基礎研究の現場では、その実験が何を目的に行われ、最終的にどんな役に立つのかわからなくなることがあるが、それが論文を書くことになつた結果なら問題だが、研究が細分化されている現状では致し方ないことだと言える。
② 豚の受精卵からほうれんそう豚を作ることとは、たとえ食用ではなく人間の疾患モデルや人間への移植用臓器といった目的のためであつたとしても、それが遺伝子操作である以上、生命倫理的な観点から断固として許してはならない。
③ 医学の現場では何が目的でどんな役に立つのかもわからない実験がよく行われているが、そのこと自体は否定しないにしても、利用されている側が気持ち悪くない、たとえ理屈が通つていても何か変だと感じたりすることは必要だろう。
④ 人間がほうれんそう豚を食べるといふような悪食は、犬がペンギンを食べたり、星新一の作品の中で怪獣が人を食べたりするような行為に匹敵する悪かな営みであるといふことを、われわれは星新一の作品から学びとることができる。
⑤ 遺伝子操作によつて生み出されたほうれんそう豚を食べるといふことは、実は霜降り肉をありがたがつて食べていることと同じなのであり、むしろ日本のこれまでの食文化に完全に一致する、とても意味のあるものだと言える。

試験問題は次に続く。

モ

三 次の文章を読んで、後の問一～七に答えなさい。

町の風景が凄^{こわ}い勢いで変わつていく。再開発の進む東京では、久しぶりに訪れた町が根こそぎ新しくなっている、なんてこともしょっちゅうだ。パ
ブル期^{パブル}のものとは性質が違つて、余すことなく徹底的にそれをやりしげようという強い意志を感じる。時には、それがひどく暴力的に思えることもある。改札を出て浦島太郎状態を味わう度に、東京はバノラ島^{バノラ}みたいだ、と思う。駅を出る度にがらりと景色が変わり、毎回別世界にいるのだから。もしかすると、
X、とそのへんをべろりとめくつてみたくなる。

私の住む町も、町の拡大と共にじわじわと風景が変わり、お総菜のチェーン店と飲食店が増えた。けれど、不思議なもので、駅のそばで^{いい}場所にあるのに、なぜかしょっちゅうテナントが変わる店がある。気がつくといつも改装をしていて、いつも新装開店。そういう店に限って、前のテナントが何だつたか思い出せない。あれはつたないなぞなのだろう。周囲の店は続いているのに、そこだけぽつかりと空虚な感じがして、生気がない。そんな場所は決まって従業員もそわそわと居心地悪そうにしていて、居着かない。

かと思うと、何か異様な迫力を醸し出して、通りかかる都度なぜかふと足を止めてしまふ場所というのもある。
その家は、いつもの散歩コースの途中にあつた。
川べりの遊歩道沿いに建っているのだが、道路に面しているのではなく、ずつと引つ込んだところに建っている。気がつかずに通り過ぎてしまつても不思議ではないのに、いつも何かの気配を感じてその家を振り返つて見てしまふ。

とても古い家で、^し満酒^{まんしゅ}な家の立ち並ぶ住宅街では異色だつた。スレート^{スレート}葺きの屋根に木造家屋の二階建て、サッシュではなく昔ながらのガラス戸、という家で、家というよりは何かの倉庫に使つてゐるのではないかと思わせるたずまいだつた。しかも、壁が一面、青々としたワタに覆われていて、それが妙にマッチしている。

奇妙なのは、道路に面した壁は大きなガラス戸でできているのに、一度も中を見た覚えがないのである。常には真つ暗で、灯りが点いているのを見たとがなないだ。もちろん、人が出入りしているところも、中に人がいるのを見たとがなない。やはり住居ではないのかも知れないが、倉庫ならば壁一面をガラス戸にする必要はないのではないか。

いつもその家を見つと見つめては、首をひねつてまた歩き出すのが習慣になつていた。不思議なのは、全く人の出入りの気配のないその家のガラス戸が、いつもびかびかに磨き上げられていることだつた。古いけれどもきちんとワックス^{ワックス}され、維持されていることは間違いないかつた。
あまりにも印象に残る家なので、実はこの家をモデルに小説を書いたことがある。

ある男が、この家をセカンドハウスにしている。男は売れっ子放送作家で、別に豪邸を持っているのだが、この古い家に入ると落ち着くので家族に隠れて通っている。彼はこの家では無職の戯演として振る舞っていて、そのキャラクターを信じて通っている女もいる。そんな二重生活がしばらく続き、男は奇妙なことに気がつく。この家で眠ると、必ずいつも同じ夢を見るのだ。巨大な建物で、夢の中ではその建物一つ一つの国であり、外はいつも激しい雷雨で誰も外に出られない。人々は、歳を取る毎に一階ずつ上の階に上がっていく。彼は夢の中の国で歳を取り、日に日に最上階に近づいていく——そんな話だ。

やがて、男は一つの仮説を思いつく。男の起っている夢は、この家が見ている夢なのではあるまいか。この家の見る夢が、彼の夢を浸食しているのではないだろうか。

つまりは、場所の持っている記憶なのだろう。

テナントのしよっちゅう変わる店は、過去の記憶を持たない。歳月の蓄積のなさが場所のアイデンティティのなさに繋がっているのだ。逆に、連続と続く濃い記憶を持っている場所もある。そこで暮らす人々にその記憶が乗り移ってしまうほどに。

今は、簡単に地図が手に入ようになった。カーナビや、ネットでの地図検索サービスも進化し、リアルタイムで精密な地図を見ることができるようになった。【②】奇妙なことに、どちらの町にも、その店を目指していくと通り着けないのに、ただぶらぶらと散歩していると必ず出くわす店というのがある。足は無意識に場所を覚えていたらしい。【③】見たことのない路地に迷い込み、見知らぬ店のドアを開けたいと願っている。【④】暮盤の星のように整然としているはずの銀座でも、京都でも、私はよく迷う。方向感覚悪くないはずなのに、永遠に目的地に辿り着けないような錯覚に陥る。銀座も京都も、実は意外なところにエアポケットのような路地を隠し持っている。どちらも一見整然としているけれど、やはり迷宮なのだ。【⑤】奇妙なことに、どちらの町にも、その店を目指していくと通り着けないのに、ただぶらぶらと散歩していると必ず出くわす店というのがある。足は無意識に場所を覚えていたらしい。【③】見たことのない路地に迷い込み、見知らぬ店のドアを開けたいと願っている。

会社員時代、どうしてもまっすぐ家に帰れない日があった。身体は疲れ切っているし、明日も早いことは分かっているのに、まっすぐ家に帰ることができない。そんな時、寄るころが幾つかあって、私はそれを「Y」と呼んでいた。かつて古典の教科書で、出かける先の方向が悪い時、いったん別の場所に行つてから目的地を目指す行為を指していた言葉である。【①】都市生活者の喜びは、匿名の存在として潜り込む場所を複数持っていることだろう。職場と自宅の間に。もしくは、黄昏と夜の間に。大人には、一時退避所が必要だ。それも、濃厚な土地の記憶を持つ、歳月の蓄積した場所が、時には、全てびかびかにリニューアルされた新しさが救いになることもあるけれど、私は今の東京から根こそぎ大人のための隙間がなくなってしまうことをキグしている。【⑤】

夜の夢こそまじと。

東京のこき巨大なパノラマ局を夢想した江戸川乱歩の言葉である。彼は、今のびかびかのビル群を気に入るのだろうか。

（恩田陸「土曜日は灰色の馬」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 20、イが 21。

- ア ソウジ
- ① 事件のソウサが難航する
- ② 在庫をイッソウする
- ③ 原文に注釈をソウニウする
- ④ ねばり強い説得がソウコウする
- ⑤ 自信をソウシツする
- イ キグ
- ① 進学をキボウしている
- ② 組合のキヤクを改正する
- ③ キビキで早退する
- ④ キゼツして倒れる
- ⑤ 思いがけないキナンにあふ

問二 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 22。

- ① 竜宮城に居る入り口がどこにあるかもしれない
- ② 大きなキャンパスが重ねられているのではない
- ③ 東京の再開発はもう終わってしまったのかもしれない
- ④ 本当に別世界にきてしまったのではない
- ⑤ 自分が駅を降り間違えてしまったのではない

— 17 —

問三 傍線部 A あれはいつたいなせなのだろうの説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- ① 筆者はその理由として、その店のある場所をかつて借りていたテナントにまわりつく悪い霊気が、今もなおそこに漂っているせいなのだと考えている。
- ② 筆者はその理由として、東京の再開発が進みテナントの入れ替わりが速くなってしまう、風景が根こそぎ新しくなってしまうからだと考えている。
- ③ 筆者はその理由として、そのテナントのある場所だけがはっきりと空虚な感じを与えてしまい、人の記憶を寄せつけようとしなからだと考えている。
- ④ 筆者はその理由として、テナントがしよっちゅう変わってしまったため、その店の場所には過去の記憶というものが蓄積されていないからだ、と考えている。

⑤ 筆者はその理由として、テナントの入れ替わりが激しすぎて、改装に気づいたときには以前の記憶との区別がつかなくなっているからだ、と考えている。

問四 傍線部 B 何かの気配の説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- ① そこに住んでいる幽霊
- ② そこに怪異が起こる予感
- ③ その場所に住んでいた者の思念
- ④ その場所に関わったという記憶
- ⑤ その場所の持っている記憶

— 18 —

問五 本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、後の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 25。

いっぽうで、私は迷いがついている。

- ① ② ③ ④ ⑤

問六 空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① 変節
- ② 転向
- ③ 方進
- ④ 方進
- ⑤ お角違い

— 19 —

問七 傍線部C「彼は、今のびかびかのビル群を気に入るだろうか」の説明として最も適切なものを、次の③～⑤から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 27。

- ③ 東京のごとき巨大なパノラマ島を夢想した江戸川乱歩ではあるが、大人のための隙間がなくなり、夜の夢が見られなくなるような今の新しさを気に入るはずがないだろう、と筆者は想像している。
- ④ 東京のごとき巨大なパノラマ島を夢想した江戸川乱歩であるからには、この巨大なパノラマ島のような東京を見て、夢想が確かに実現したことを大いに喜ぶことだろう、と筆者は確信している。
- ⑤ 東京のごとき巨大なパノラマ島を夢想した江戸川乱歩であれば、今のびかびかになったビル群の中であっても、何とか夜の夢を追いつめる隙間を探してくれることだろう、と筆者は期待している。
- ⑥ 東京のごとき巨大なパノラマ島を夢想した江戸川乱歩であっても、新しさだけがあつて濃厚な土地の記憶が失われた現状を見ては、考えを変えてしまうかもしれない、と筆者は不安がつている。
- ⑦ 東京のごとき巨大なパノラマ島を夢想した江戸川乱歩であっても、現在のような変化の速さにはとても思い及ばなかっただろうから、さぞ驚嘆することであろう、と筆者は興味深く思っている。